



## 日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。また、展望レポートの内容を、より幅広い読者に伝えるための取り組みとして、そのポイントをイラストとともに簡潔に整理した資料（ハイライト）を公表しています。本稿では、2024年1月の展望レポート（基本的見解は1月23日、背景説明を含む全文は1月24日公表）のハイライトをご紹介します。

\*全文は、日本銀行ホームページに掲載されていますので、ご関心のある方は、ぜひそちらもご参照ください。

<https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm>



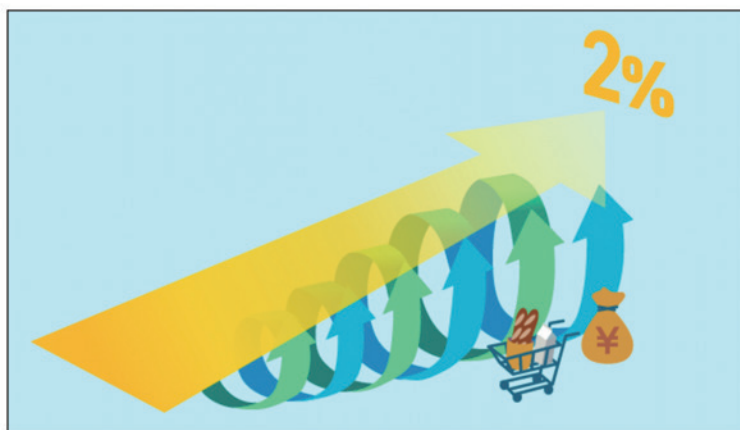
### 「経済・物価情勢の展望」（展望レポート・ハイライト）

2024年1月



**日本経済は  
緩やかな回復を続ける**

日本経済は、海外経済の回復の鈍さにより下押しされますが、消費の増加などに支えられて、緩やかな回復を続けていきます。



**物価のトレンドは**

**2%目標に向けて徐々に高まる**

消費者物価の基調的な上昇率は、2%の「物価安定の目標」に向けて徐々に高まっています。こうしたシナリオが実現する可能性は、引き続き、少しずつ高まっています。



**日本経済・物価を巡る  
不確実性は高い**

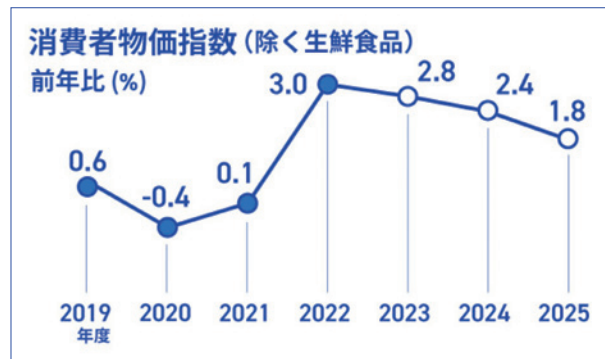
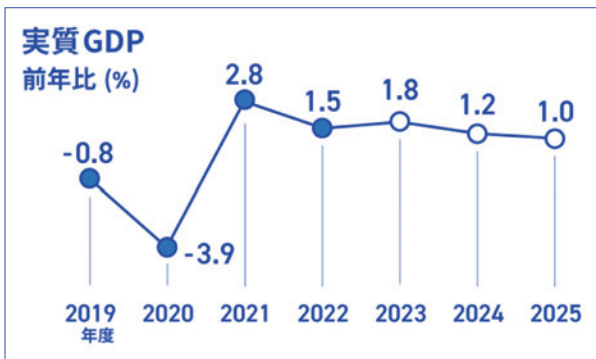
海外の経済・物価動向、資源価格の動向、企業の賃金・価格設定行動など、日本経済・物価を巡る不確実性はさわめて高い状況です。また、金融・為替市場の動向と日本経済・物価への影響にも十分注意を払う必要があります。



**強力な金融緩和を  
継続する**

日本銀行は、粘り強く金融緩和を継続することで、賃金の上昇を伴う形で、二%の「物価安定の目標」を持続的・安定的に実現することを目指してまいります。

**政策委員の経済・物価見通し**



(注) ●は実績値、○は見通しです。



# 日本銀行のレポートから

日本銀行では、本支店・事務所が企業への聞き取り調査等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、「地域経済報告」（さくらレポート）として、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会ごとに取りまとめています。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm>



## 「地域経済報告」（さくらレポート）

### 各地域の 景気判断の概要

— 二〇二四年一月 —

各地域の景気の総括判断をみると、海外経済の回復ペース鈍化や物価上昇の影響を受けてつも、すべての地域で、景気は「持ち直し」、「緩やかに回復」、「着実に回復」としている。ただし、一地域では、輸出の弱さから「持ち直しのペースが鈍化」としている。

	【23/10月判断】	前回との比較	【24/1月判断】
北海道	持ち直している	➡	持ち直している
東北	持ち直している	➡	持ち直している
北陸	緩やかに回復している	➡	今後、令和6年能登半島地震の影響を注視する必要があるが、緩やかに回復している
関東甲信越	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
東海	持ち直している	➡	緩やかに回復している
近畿	一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している	➡	持ち直しのペースが鈍化している
中国	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
四国	持ち直している	➡	持ち直している
九州・沖縄	緩やかに回復している	➡	着実に回復している

(注) 前回との比較の「➡」、「➡」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。

